

# 長野の林業

平成28年4月10日発行  
長野の林業編集委員会

## No.315

もくじ



新任ごあいさつ……………長野県林務部長 ……………	2
<b>特集</b> 平成28年度 長野県林務部の主要施策の概要 ……………	3
森の元気情報……………「森の里親促進事業」CO <sub>2</sub> 吸収評価認証制度 ……………	6
信州フォレストコンダクターの活動の本格化に向けて ……	7
お知らせ……………地方創生は地域材から ……………	8
人事異動 中部森林管理局/長野県 ……………	9
県森連だより……………	10
長野県の木材市況……………	12



平成28年4月7日(木)に、「平成28年度長野県林業大学校入学式」を執り行い、地元木曾町長をはじめとする多くの来賓の皆様のご出席の中、第38期生の入学をお祝いしました。

新入生の皆様のご入学を心からお喜びいたしますとともに、今後のご活躍をお祈り申し上げます。

〈写真 平成28年4月7日撮影〉



「森林を活かし

森林に生かされる 私たちの  
豊かな暮らし」の実現に向けて



長野県林務部長  
池田 秀幸

この度、四月一日付けで林務部長を拝命いたしました。

大北森林組合の補助金不適正受給問題等に関し、県民の皆様の信用を大きく失墜させたことに對し、まずは、深くお詫び申し上げます。

本年度は県の組織全体でコンプライアンス推進に取り組みることとしておりますが、とりわけ林務部においては、県民の皆様からの信頼回復に向け、職員一丸となって業務の徹底的な改善に取り組んでまいります。皆様のご期待に応えられる林務行政とは何かを常に点検・議論し、本県の森林づくりに関する基本的な展開方向を定めた「長野県森林づくり指針」に沿い、基本目標である「森林を活かし 森林に生かされる 私たちの豊かな暮らし」の実現に向けて精一杯尽力してまいりますので、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十八年は「第六十七回全国植樹祭」の開催年であり、六月五日の開催日には、天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ記念式典を行います。また、広域開催型の大会として大勢の皆様にご参加いただけるよう、三地区に招待者記念植樹会場、十地区に県民植樹会場を設けます。

「ひと ゆめ みどり 信濃から未来へつなぐ森づくり」の大会テーマのもと、本県の豊かな森林や山々に育まれた「木と森の文化」を広く発信し、森林県である本県を林業県として発展させる契機としてまいります。

また、六月四日には関連行事として第四十五回全国林業後継者大会を飯山市で開催し、多くの林業後継者が集い、交流を深めます。

さらに、八月十一日、国民の祝日「山の日」の制定を記念して、上高地を中心に第一回「山の日」記念全国大会を開催します。松本市や関係団体との連携のもと、「信州の山」の魅力を国内外に積極的に発信してまいります。

さて、県土の約八割を占める森林は、土砂災害や洪水を防止し、水や空気を育むなど、「社会共通の財産」として私たちの暮らしを守る様々な役割を担っています。この豊かな森林を健全な姿で引き継いでいくためには、充実してきている木材資源を最大限活用し、木材生産活動や県内で付加価値を高める活動を活発化させ、林業・木材産業が地域を支える産業へと発展していくことが重要です。

このため、木材を効率的、安定的に供給するための基盤となる林内路網整備や高性能林業機械の導入支援、安全で効率的な操作を行うことので

きる人材の養成研修等を実施するほか、今年度新たな取組として「信州の木自給圏構築事業」を開始し、需要から供給まで幅広い関係者の参加を得る中で、地域の特徴や県産材の強みを活かした地産地産体制等の検討を進めてまいります。

また、信州F・POWERプロジェクトなど今後増加が見込まれる県内の木材需要に対応するため、「サプライチェーンセンター」を中心とした県産材の安定供給体制の構築を引き続き進めてまいります。さらに、林業立国でありバイオマスエネルギー先進国でもあるオーストラリアとの覚書に基づく技術交流を進め、世界最先端の林業・木材産業・バイオマスエネルギー利用技術の導入や人材育成などの支援に取り組んでまいります。

一方、県民の豊かな暮らしを支える資源であるにもかかわらず、これまで手入れの進みにくかった「里山」については、県民の皆様にご負担をいただいている「長野県森林づくり県民税」を活用して整備を進めるとともに、間伐材等の里山資源の利活用を進めてまいります。

また、県民の皆様の安全・安心な暮らしを守るため、治山事業や森林病虫害対策などによる健全で災害に強い森林づくりを推進するとともに、農林業や自然生態系に深刻な影響を及ぼしているニホンジカの捕獲など野生鳥獣被害対策の継続的な推進、信州ジビエの需要拡大・安定供給に取り組んでまいります。

結びに、様々な恩恵を与えてくれている本県の豊かな森林を次世代へと確実に引き継いでいくため、皆様の一層のご理解とご協力をお願いし、就任のあいさつといたします。

## 平成二十八年 長野県林務部の主要施策の概要

「森林を活かし 森林に生かされる  
私たちの豊かな暮らしの実現を目指して」  
森林政策課

平成二十八年はいよいよ長野県で「第六十七回全国植樹祭」が開催されます。六月五日の開催日には、天皇・皇后両陛下のご臨席を賜り、長野市オリピック記念アリーナ「エムウエーブ」において記念式典を行います。県全域をステージとした広域開催型の大会として県民植樹会場を県内十か所に設置するなど、大勢の皆様に参加いただけるよう、取り組みます。

「ひと ゆめ みどり 信濃から未来へつなぐ森づくり」の大会テーマのもと、本県の豊かな森林や山々に育まれた「木と森の文化」を県内外の皆様へ発信し、私たちに、様々な恵みを与えてくれる森林を未来に引き継ぐ契機とします。

また、全国植樹祭の関連行事として六月四日に「飯山市文化交流館なちゅうら」において第四十五回全国林業後継者大会を開催します。「人・技・気持ち つなげよう 未来へ」の大会テーマのもと、県内はもとより県外からも多くの林業後継者を招き、交流を深めます。

また、「信州山の日」制定三年目となる今年度は、「山の恵みに感謝し、守り育てながら活かしていく」という制定趣旨の定着と浸透を図るため、山や森林に親しむ取組に大勢の皆様の参加が得られるよう取り組みます。

さらに、本年の八月十一日には、新たに国民の祝日「山の日」の制定を記念して、松本市の上高地を中心に第一回「山の日」記念全国大会を松本市等と連携して開催し、「信州の山」の魅力を国内外に発信します。

【関連事業】第六十七回全国植樹祭推進事業(三億九千九百九十四万七千七百円)

「山の日」記念全国大会推進事業(四千二百三十四万四千円)

「信州山の日」推進事業(三百二十八万八千六百円)

全国林業後継者大会推進事業(二百八十四万八千八百円)

林務部の主要施策としては、「長野県ふるさと森林づくり条例」に基づき、本県の森林づくりに関する基本的な展開方向を定めた「長野県森林づく



り指針」に沿って、また、「しあわせ信州創造プラン」の基本目標「確かな暮らしが営まれる美しい信州の実現」に向けて、さらには、「長野県人口定着・確かな暮らし実現総合戦略」「信州創生戦略」に基づき、森林・林業施策を推進します。

また、県民の皆様からの信頼回復に向けて、大北森林組合等補助金不適正受給事案を踏まえた再発防止に林務部職員一丸となって取り組みます。

平成二十八年度林務部一般会計は、百六十九億一千三百五十五万五千円、対前年度比九十三パーセントの予算を編成しました。森林づくり指針に掲げる三つの基本方針に基づき、主な施策について説明します。

### みんなの暮らしを守る森林づくり

県民の皆様が安全で安心して暮らし続けられるように、森林の持つ多面的な機能の向上を図り、森林を健全な姿で次世代に引き継いでいくため、手入れの遅れた森林の間伐を計画的に推進します。特に山地災害防止機能を重視する森林においては、森林整備と治山施設の設置を一体的に行う「災害に強い森林づくり」を推進します。

#### ① 災害に強い森林づくりの推進

森林整備と治山施設整備を組み合わせ、山腹崩壊や土石流を発生しにくくし、また、発生したとしても被害を軽減できるような森林づくりに取り組みます。

また、県内民有林全域での航空レーザ測量により把握した「詳細な地形」と「森林の疎密度等」の情報を組み合わせ山地災害の危険箇所を抽出する取組を進めています。これらの成果を活かして治山事業を実施し、地域ぐるみの防災活動を推進します。

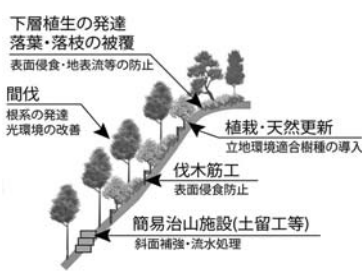
さらに、森林は、急峻で脆弱な県土の保全、本県特有の景観の形成、まつたけ生産等による地域振興などに重要な役割を果たしています。そこで、松くい虫による被害の拡大を防止するため、松林を「守るべき松林」と、その周囲で被害の拡大を防止する「周辺松林」とに区分し、それぞれの区分で実施可能な対策を効果的に組み合わせ、選択と集中による防除対策を展開します。

#### 【関連事業】

公共治山事業(四十九億三千六十六万四千円)(補正予算含む)

県単治山事業(一億五千五百七十七万五千円)

森林健全化推進事業(二億七千四百一十二万円)



② 計画的な間伐の推進

平成二十七年年度まで森林づくりアクションプランの間伐目標面積などに基  
づき予算要求してまいりましたが、平成二十八年年度は、大北森林組合等の補  
助金不適正受給事案の反省に立ち、事業主体の要望量、実行能力等を踏まえ  
た計画量に基づいて面積を計上しました。  
国の造林補助制度や長野県森林づくり県民税を活用する造林補助事業にお  
ける間伐計画面積は対前年度比九十四%の九千九百ヘクタールの間伐を実施  
します。

なお、県産材の安定供給に向け、間伐材の搬出を優先して支援します。

【関連事業】

信州の森林づくり事業(二十五億六千八百二十一万三千円)  
みんなで支える里山整備事業(六億九千九百八十八万円)

③ 実行性のある森林計画制度の確立

平成二十八年度には、木曾地域の森林の適切な管理や利用を進めるため、  
地域の実態に即した今後十年間の計画として、木曾谷森林計画区の地域森林  
計画を策定します。

【関連事業】

地域森林計画編成費(二千八百十四万円)

木を活かした力強い産業づくり

本県の有する豊富な木材資源の活用による地域づくりを進めるため、計画  
的な木材生産、県産材製品の安定供給、建築、エネルギー等への県産材の利  
用促進に総合的に取り組めます。

① 林業経営団地の設定及び林内路網整備等の推進

持続的な森林経営が図られるよう、林業事業者等  
が行う森林施業の集約化や森林経営計画作成の取組  
を支援します。また、県産材を効率的、安定的に供  
給する基盤となる林道、林業専用道や森林作業道な  
どの林内路網を整備します。

さらに、木材の生産コストの低減と労働安全性の  
向上を図るため、高性能林業機械の導入を支援する  
とともに、安全で効率的な操作を行うことのできる  
人材の養成研修を実施します。

【関連事業】

林業再生総合対策事業(七千七百万円)  
高性能林業機械導入推進事業

(一億六千五百八十二万六千円)



② 担い手対策の推進

林業大学校における教育を充実し、木材の  
生産から利用、地域振興に至るまで、長野県  
林業の未来を切り拓く実践的な林業後継者  
等を育成します。また、平成二十五年年度から  
二十七年年度までに育成された「信州フォレス  
トコンダクター」三十名が、各地域の林業・  
木材産業において経営感覚を持ちながら総  
合的な視野で指揮していくために必要な支  
援を行います。

林業総合センターでは、地域の中核的人材  
となる林業士や林業技術者の養成、健全な森  
林を造成するための人工林の更新等の育林  
技術の開発、きのこ類等の増産技術の開発、県産材の加工・利用技術の開発  
などを積極的に進めます。

【関連事業】

林業大学校費(三千三百七十一万二千円)  
信州フォレストコンダクター活動支援事業(百十五万八千円)

③ 県産材の生産加工流通体制整備の推進

県産材の生産・流通・加工・利用の各段階における現状分析や課題解決の  
方向性等を検討し、地域の特徴を活かした信州の木の自給圏の構築を図りま  
す。

また、本県の新しい林業・木材産業の創生の起爆剤となる信州F・POW  
ERプロジェクトによる、製材工場が本格的に稼働しております。この他、  
県産材の生産から加工・流通に係る機械・施設整備の取組に支援し、今後増  
加が見込まれる県内の木材需要に対応すべく安定した原木供給を継続するた  
め、「サプライチェーンセンター」を中心とした県産材の安定供給体制の構  
築を引き続き進めます。

さらに、林業立国でありバイオマスエネルギー先進国でもあるオーストリ  
アとの覚書に基づき技術交流を集中的に進めることにより、林業技術者の意  
識改革を進めるとともに、世界最先端の林業・木材産業・バイオマスエネル  
ギー活用技術の導入や人材の育成を図ります。

【関連事業】

信州の木自給圏構築事業(七百四十四万六千円)  
長野・オーストリア林業技術交流事業(三百万円)

森のエネルギー総合推進事業(一億二千八十八万三千円)



④ 様々な用途での県産材需要の拡大

木材を建築や土木用資材、家具・建具等の暮らしの中の製品など様々な分野で活用していくとともに、低質材や製材加工で発生する端材などを、木質バイオマス燃料として活用するなど、県産材を余すことなく活用することが必要です。

このため、市町村等が実施する公共施設の木造化及び内装木質化の支援や公共施設への木質バイオマスボイラ等の導入に支援するほか、自然エネルギー地域基金を活用して市町村が行う個人のペレットストーブ等の導入促進を支援します。

さらに、地域が主体となり、里山の森林資源を木質バイオマス利用や商店街等の木質化などに活用する先進的なモデル地区の取組を支援することにより、身近な森林資源を地域の活性化やエネルギーの自立につなげ、森林資源の持続的活用を図ります。

【関連事業】

信州の木活用モデル地域支援事業（一千二百五十万円）  
木造公共施設整備事業（一億四千四百万円）

森林を支える豊かな地域づくり

人口減少社会にあつて山村の活力を高めていくためには、就労の場の確保や都市部等との移住交流が重要であり、主要な産業である農林業のみならず、森林空間、特用林産物、木工品等の地域資源を有効に活用した取組や交流の取組などを支援します。

また、依然として農山村に深刻な影響を与えている野生鳥獣被害の総合的な対策を進め、安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

① 地域特性に応じた森林経営・森林資源の活用・交流促進

本県は、森林の持つ癒し効果等を健康増進に役立てる「森林セラピー基地・ロード」が十か所あり、全国一多い県となっています。

平成二十七年に施行された「ストレスチェック制度」の開始も踏まえ、企業のメンタルヘルスケアの一環として森林セラピーの活用が期待されている



ことから、県内各基地における企業の参加促進を図ります。

また、地域自らが里山資源の活用の推進と継続的に活動できる地域づくりを進めるため、林業研究グループやNPO法人等が地域に働きかけ、技術指導や安全教育を実施する中で地域リーダーを育成する取組に対して支援します。

特用林産物の生産振興については、安全・安心な特用林産物の普及を図るために放射性物質の検査を行うとともに、原木栽培きのこの生産に必要な資材導入を支援します。

さらに、都市や企業等との交流を通じた森林づくりとしましては、森林（もり）の里親新規企業の契約促進を推進します。

【関連事業】

全国一の森林セラピー県推進事業（二百七十八万円）  
里山活用推進リーダー育成事業（三百万円）

② 信州ジビエの振興

ニホンジカの適切な捕獲を促進するとともに、捕獲したニホンジカを地域の有用な資源として活用するため、信州産シカ肉を活用した商品開発や供給体制整備、人材育成を総合的に展開し、信州ジビエの需要拡大と安定供給を推進します。

【関連事業】

信州ジビエ活用推進事業（二千九百八十七万円）

③ 野生鳥獣対策の推進

ニホンジカが従来生息していなかった県北西部にも分布を広げており、農林業や自然生態系に深刻な影響を及ぼしています。

平成二十六年の鳥獣保護法一部改正により創設された指定管理鳥獣捕獲等事業を活用し、これまで実施が困難であった標高の高い地域等でニホンジカの生息状況を把握しつつ、高度な捕獲技術を有する新たな担い手により集中的な捕獲を推進します。

【関連事業】

ニホンジカ捕獲強化事業（六千八百万円）  
鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業（二億三千万円）  
ハンターデビュー支援事業（五百万円）



～森林の里親企業等の活動を「見える化」～

## 長野県「森林の里親促進事業」CO<sub>2</sub>吸収評価認証制度

平成20年度から始まった認証は通算で14回を数え、平成27年度認証吸収量は、4,483二酸化炭素ト<sub>ン</sub>となりました。

長野県では、森林(もり)の里親促進事業に基づく取組により間伐された森林のCO<sub>2</sub>吸収量を知事が認証し、県内外の企業等のCSR活動の「見える化」を平成20年度から行っており、平成28年3月には通算14回目の認証を行いました。

森林CO<sub>2</sub>吸収評価の対象とした間伐面積や吸収量は年々増加し、平成25～26年度には年間吸収量が5,000二酸化炭素ト<sub>ン</sub>を突破。27年度は認証件数は前年度より増加したものの吸収量は減少し、4,483二酸化炭素ト<sub>ン</sub>となりました。これまでの累計では、認証件数は延べ85件、吸収量は延べ2万7,051二酸化炭素ト<sub>ン</sub>となっています。

これは約11,761台の乗用車(1台当たりの年間CO<sub>2</sub>排出量は約2,300kg/林野庁ホームページから引用)の年間CO<sub>2</sub>排出量に相当します。



森に力を  
Power to the forest.  
地球に未来を  
Future to the earth.



図(上): 認証制度のキャッチフレーズとロゴマーク

写真(左): 審査委員による現地調査(H27.9 立科町)

写真(右): 認証式(H28.3長野県庁)

認証年度	認証回数	認証実績 (各回)				認証実績 (年度計)				適用
		認証件数 (件)	対象者数 (者)	間伐面積 (ha)	吸収量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	認証件数 (件)	対象者数 (者)	間伐面積 (ha)	吸収量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	
H20	1回	4	8	76	367	4	8	76	367	試行認証
H21	2回	9	13	202	1,139	9	13	202	1,139	
H22	3回	5	5	33	94	11	15	462	2,379	複数年認証開始(4回～)
	4回	6	10	429	2,285					
H23	5回	5	5	82	317	14	18	803	3,855	
	6回	9	13	721	3,538					
H24	7回	3	3	61	188	10	15	998	4,677	
	8回	7	12	937	4,489					
H25	9回	5	5	120	453	12	17	1,160	5,131	
	10回	7	12	1,040	4,679					
H26	11回	4	5	138	461	12	19	1,158	5,019	
	12回	8	14	1,021	4,558					
H27	13回	3	3	82	373	13	19	1,030	4,483	
	14回	10	16	948	4,109					
計						85	124	5,890	27,051	

(注) 計は延べ数。また、四捨五入により計と内訳が一致しない場合があります。

## 信州フォレストコンダクターの活動の本格化に向けて

長野県では、里山を活用した地域づくりから、森林管理、木材の出荷・利用等にわたり、経営感覚を持ちながら総合的な視野で指揮する「信州フォレストコンダクター」（以下、「SFC」とします。）を、長野県森林づくり県民税を活用して育成してきました。

平成二十五年度の育成事業開始から平成二十六年まで登録された十九名に加え、平成二十七年には新たに十一名がSFCに登録されました。

平成二十七年の事業実施状況としては、県が行う集合研修（四回）とSFC連携会議（一回）を開催したほか、各地域の課題解決に向けた個別研修として、国内の林業先進事業体への派遣研修や、オーストラリア研修等を実施していただきました。

これまでの三年間で県内の各地域で二〜四名のSFCが登録されたことから、SFCの育成は一段落とし、平成二十八年度からは「信州フォレストコンダクター活動支援事業」として、三十名のSFCの皆様が各地域の林業・木材産業関係者と連携して行う活動基盤づくりの取組を支援してまいります。

本県が「森林県」から「林業県」への飛躍を目指し高収益・自立型林業構造の確立に取り組むとともに、多様な分野と連携した森林資源の利活用を進めるために、SFCの皆様のますますのご活躍が期待されます。

### 【信州の木活用課】



ワークショップ(H27.7.17:第2回集合研修)

### 新たにSFCに登録された皆様 (地域順、敬称略)

地域	事業体名	氏名
佐久	南佐久南部森林組合	渡辺正美
上小	信州上小森林組合	小坂真
諏訪	細川木材(株)	小林武文
上伊那	上伊那森林組合	河合寛
木曾	木曾森林組合	松原圭三
松本	オガサワラ林業(有)	小笠原敏貴
長野	長野森林組合	春日賢一
長野	宮澤木材産業(株)	宮澤遥
北信	北信州森林組合	尾淵義輝
北信	栄村森林組合	広瀬将文
県域	長野県森林組合連合会	牛島俊平
計		11名

### 地域ごとのSFCの人数

地域	人数
佐久	4名
上小	2名
諏訪	2名
上伊那	3名
下伊那	2名
木曾	4名
松本	3名
北安曇	2名
長野	4名
北信	3名
県域	1名
計	30名



ソヤノウッドパーク視察(H27.9.18:第3回集合研修)



登録証とともに記念撮影(H28.3.4:閉講式)



長野県産木材で

# 家づくり

県産木材がいい6つの理由。

- ① 長野で育っているから家が長持ち!
- ② 気候風土に適しているから健康に暮らせます!
- ③ 木の家は温暖化防止に役立ちます。
- ④ 木の家は森林資源の再生に役立ちます!
- ⑤ 地域貢献度がアップします!
- ⑥ 県産材の証明!



県内には、平成二年度の統計で六〇〇社あった製材工場が、最近では一七〇社に激減しています。国内資源が未成熟なことと安価で大量に輸入できる外材一辺倒の時代が長く続いたことがその大きな要因として挙げられます。

長野県木材協同組合連合会では、地域製材業界の強化策として全木連からの補助による「地域材利用の木材関係者等への支援対策事業」を導入し、生産された地域材を地域の製材工場で加工し、地域の工務店へ供給できる体制の再構築により地方創生の一役を担えるよう前述の支援対策事業の一環として「製材業界経営状況調査事業」を実施し、工場ごとの製品リストの作成等を計画しています。

## 地方創生は地域材から 地域製材業界の販売戦略強化

長野県木材協同組合連合会 〒380-8567 長野市岡田町30-16(長野県林業センター内) TEL.026-226-1471 E-mail:nkenmokuren@siren.ocn.ne.jp http://kenmokuren.shinshu-kiraku.net/

### 4月 記念市のご案内

- ◆ 製品 {花まつり市} 第42回全木協連優良国産材製材品展示会  
〈本部事務所〉 4月23日(土) セリ 売り出し9時 保証金 10万円
- ◆ 原木 『春季謝恩市』  
〈荻原事務所〉 4月26日(火) 入札開札 13時 保証金 10万円  
〈坂下事務所〉 4月22日(金) 入札開札 13時 保証金 10万円

### 5月の市売りのご案内

本部事務所(製品)	荻原事務所(原木)	坂下事務所(原木)	国有林土場等活用委託販売市売日
新緑まつり 5月21日(土)	5月30日(月)	5月11日(水) 5月25日(水)	5月10日(火) <small>入札物件紹介・入札結果はホームページに掲載 ※本市売は、これまでの木曾地区国有林の公売に代わるものです。</small>

※入札参加資格・入札条件等詳細については下記へお問い合わせください。



## 木曾官材市売協同組合

ホームページアドレス <http://www.kisokan.com>

荻原事務所：長野県木曾郡上松町荻原字中島1431-1 ☎0264-52-2483(代) FAX0264-52-4885  
 やぶ原土場：長野県木曾郡木祖村数原844-1 ☎0264-24-0085(代) FAX0264-24-0086  
 坂下事務所：岐阜県中津川市坂下133-1 ☎0573-75-3178(代) FAX0573-75-3172

理事長 野村 弘  
 本部事務所：長野県木曾郡上松町正島町2-45  
 ☎0264-52-2480 FAX0264-52-2324





### 中部森林管理局

## 人事異動

平成28年4月1日付

中部森林管理局長

新島 俊哉

中部森林管理局次長  
(名古屋事務所長)

木村 大助

総務企画部長

竹内 芳仁

森林整備部長

佐藤 肇

総務企画部企画調整課長

河邊 喬

総務企画部経理課長

田中 誠

計画保全部治山課長

水野 明

北信森林管理署長

川村 一憲

木曾森林管理署長

新津 清亮

飛騨森林管理署長

坂本 和隆

岐阜森林管理署長

藤村 武

総務企画部専門官

(契約適正化・債権管理担当)

中村 栄一

総務企画部専門官

(契約適正化担当)

室崎 浩伸

森林整備部企画官

(間伐推進担当)

上田 喜幸

森林整備部企画官

(自然再生担当)

岩本 道彦

森林整備部上席自然再生指導官

(木曾森林ふれあい推進セン

ター所長)

新家 孝之

森林整備部企画官

(供給戦略担当)

永瀬 庄栄

南信森林管理署次長

林 満

### 長野県林務部

## 人事異動

平成28年4月1日付

林務部長

池田 秀幸

林業総合センター所長

市村 敏文

林業大学校長

山口 勝也

### 県庁 課室

森林政策課

森林政策課長 小山 聡

企画幹兼課長補佐

宮原 渉

企画幹

中村 嘉光

主任専門指導員

加藤 邦武

課長補佐兼森林計画係長

逸見 玲子

信州の木活用課

林務技監兼信州の木活用課長

山崎 明

企画幹兼課長補佐兼

担い手育成係長

萩原 千明

課長補佐兼林道係長

工藤 和彦

課長補佐兼経営普及係長

小林 聖一

森林づくり推進課

森林づくり推進課長

宮 宣敏

企画幹兼保安林係長

三澤 雅孝

造林緑化係長 木次 勲

鳥獣対策・ジビエ振興室

鳥獣対策・ジビエ振興室長

佐藤 繁

地方事務所林務課

佐久 課長 比田井 章

上小 課長 井上 和幸

諏訪 課長 大久保 弘明

下伊那 課長 小島 和夫

北安曇 課長 高橋 明彦

長野 課長 前島 啓伸

北信 課長 湯本 和久

林業総合センター

育林部長 西岡 泰久

木材部長 今井 信

林業大学校

事務長 小林 達吉





# 長野県森連職員会議および コンプライアンス研修会開催

長野県森連では平成28年4月1日(金)に林業センタービルにおいて職員会議およびコンプライアンス研修会を開催しました。

職員会議は、この時期に例年開催されているもので初めに、辞令交付、会長・専務理事挨拶が行われ、続いてコンプライアンスの推進について、安全大会の実施について、事業全般の意見開陳について等幅広い内容について活発な協議が行われました。

コンプライアンス研修会は職員



藤原会長の挨拶

会議に引き続いて開催されました。



職員会議の様子

この研修会は系統運動、森林・林業・山村未来創造運動の中で謳われている、組合員・社会に信頼される開かれた組織づくりに対する取り組みの一環として行われたものです。

研修会では、農林中央金庫関東業務部より講師として田中潤氏をお招きし、全職員を対象に、コン

プライアンスの定義、目的、パターンごとに見る不祥事の原因や防止策、対処方法などを学びました。

森林組合系統におけるコンプライアンス体制の強化は、不祥事案の再発防止、森林組合に対する信頼回復、森林組合系統の健全な発展のためにも重要な取り組みであり、連合会職員一人ひとりの責任と自覚を持った取り組みが求められています。



コンプライアンス研修会の様子

※コンプライアンスの目的「違法行為・倫理・良識にもとる行為を未然に防止する仕組みを構築して業務運営の社会適合性を高めていくことにより、経営の健全性を確保し、社会からの信頼を確立していくこと。コンプライアンスは、「組織存続の生命線」で、「組織の価値を高める」効果もある。

## 森林組合職員会議開催

4月6日(水)、塩尻市総合文化センターにおいて、森林組合職員会議が開催されました。開会の挨拶を県森連・滝澤専務理事より行い、協議・説明に移りました。

初めに、県林務部より①長野県森林組合指導方針の改正について②常例検査の概要と変更について、の説明が行われました。

次に、全森連より①次期系統運動の策定について②平成28年度地方財政対策について、の説明が行われました。

その後、県森連より①コンプライアンス態勢の構築について(コンプライアンスマニュアル実現のためのガイドラインについて、補助事業(森林整備事業)の実施体制およびコンプライアンス態勢にかかる自己点検の実施について)②森林保険の加入推進について、の説明が行われました。

参加者からは、次期系統運動についてより多くの取組事例を示して欲しい等の要望が出されました。

# 長野県林業職員協会総会開催

3月18日(金)、長野市の林業センタービルにて、長野県林業職員協会の通常総会が開催されました。

総会は河手会長による挨拶の後、長野県森連・馬島参事より来賓祝辞をいただきました。



挨拶を行う河手会長

議事は、会長を議長に進められ、第一号議案・平成27年度事業報告並びに収支決算書承認についてから、第四号議案・役員改選についてまで、全四議案が審議の上、原案通り承認・決定されました。また、本年は役員改選により役員を選出が行われ、青木春美氏が会長に選出され、新規就任のあいさつをされました。

本協会では、林業に従事する職員がより一層の団結を行い、この素晴らしい森林を未来に継承していくための方策を見出すことを目的として、様々な活動を行っていました。

平成27年度は、第42回中部6県職員連盟ブロック会議へ参加し、木材生産量増加や獣害対策、バイオマス発電事業への対応について協議しました。また、林業基本



新任役員の方々

問題研究会として富山県富山市及び射水市に研修に赴き、全国組合員連盟

究集会への参加、ウッドリンク株式会社への視察研修を行いました。県大会では林業技術競技会お

よび南佐久中部森林組合が実施するカラマツの更新伐現場の視察を行いました。

## 安全作業を胸に 伐木機械特別講習会開催

3月5日(土)及び9日(水)に、中信木材センターと北信木材セン

項、関係法令等について学びました。

ターにて、県森連職員を対象とした車両系木材伐出機械運転業務特別教育が行われました。

特に研修では、安全作業の為に必要な位置取り、操作法、運転特性、心構えについて、繰り返し講義いただきました。

当日は、長野森林組合森づくり推進課の赤松課長(車両系木材伐

続いて後日、北信木材センター

出機械運転業務安全衛生教育インストラクター)を講師に、伐木等機械の基本的知識、走行及び作業

の土場にて実技教育が行われ、定められたコースの基本走行や原木の集積など

学科教育



に関する知識、一般的な作業知識、運転に必要な一般事

実技教育



を行いました。受講生は、普段使わない機械の操作に手間取りながらも、所定の実技を終え、無事に修了しました。

